

小粉塵日記

昭和十二年
八月以終

特別

14

1919

628

35

40

45

50

小杉慶日誌

昭和十二年 七月三日 以降

七月三十一日

朝来極暑... 難波到平土田表大ら...
 来乞又林浩二... 中打進午... 行出...
 ...午後一時大隈...
 ...日本女子... 院の集... 臨...
 ...海... 会... 茶... 集... 二...
 ...動... 時... 日... 流...

二三の所見を、應じ四時散念、所儀二十四文、

八月

一日

日

時、朝来の人の言、於此を著す、表山書、三月、馬十の
先を傳めて三藏の印刷を授けんとす、高麗の公を
酒飲し、酒後、於此を著す、一時、酒を
飲ふを催し、未だ既刊の金の地書、中、蒙、利、用
す、酒のを、送、捨、す、時、を、著、す、

標原製

二日

時、不、定、あ、ま、の、を、接、す、朝、来、於、此、を、著、す、蒙、利、の、地
書、を、著、す、作、み、ま、す、丹、志、塚、平、を、島、考、院、に
行、い、白、本、を、以、列、中、の、根、津、を、著、す、一、り、花、名、の
能、而、并、に、表、書、を、観、言、峰、を、飲、し、の、未、又
於、此、を、著、す、又、若、志、を、冒、し、七、会、の、既、刊、地、書
中、の、蒙、利、の、地、書、を、送、捨、す、時、を、著、す、

三日

時、朝、来、の、言、を、以、り、し、き、印、説、を、於、此、に、著、す、の、由

義男も、所存の正歌ぶとぬめき、猶ほ、寄てある
秋時増税、兼、并、日、泰利取、法、改、正、東、提、出、也、五、丹
吳、擲、平、し、ふ、退、院、先、子、輪、隨、と、つ、と、也、丹、馬、原、平、し
河、下、打、込、い、日、人、も、来、出、大、改、正、改、正、揮、毫、入、込、書
と、是、も、協、平、遠、後、入、つ、と、の、名、を、し、初、の、是、次、也
只、友、宅、宅、地、租、税、二、十、畝、田、耕、田、出、先、也、入、り、伊
月、留、と、付、あ、り、協、平、し、と、は、少、く、珍、重、す、也

四日

吹、羽、来、寄、引、つ、き、雜、紙、と、印、法、と、紹、す、今、此、の、人

横原製

所、部、見、川、来、揚、秋、時、の、小、林、存、来、法、土、田、秀、太
印、し、来、也、村、山、秋、時、の、端、と、是、し、坊、由、也、是、の、り
幅、通、に、累、す、午、後、廿、五、と、冒、し、七、遊、紙、と、是、す、也

五日

吹、羽、存、着、心、算、あ、り、死、去、と、實、才、結、登、三、つ、と、し、と、是、報
し、と、是、也、坊、上、弘、若、野、英、病、此、と、報、し、来、也、亦、一、坊、の
取、金、三、百、四、十、出、す、と、先、月、拂、入、り、也、取、税、百、四、十、也、
掛、紙、大、改、每、日、抄、り、も、至、極、也、二十、八、日、出、来、
也、宿、に、數、来、伊、勢、丹、心、算、と、誦、經、と、也、也、

伊月録百廿二

二日

晴朝来印法を難給、華才山田清也今更のほ
内通り道の山位を高くし、未リ地味を乞ふ、アトリエ
社の森本館三才あり、象刺業考の印の地味を
戸に伝ふ流しを三村中流に伝ふ名刺を遺す、郡江
母出京斗次、午後雷が漸や、雨を伝ふ、未、半は防
護園に、夏草、杉の角を、冬、雪、西のぶを、夏、
未、冊、原、平、を、未、雨、終、未、

榛原製

七日

晴、田、上、吉、中、り、と、近、刊、の、詩、集、を、定、の、と、あ、る、牛、込
防、護、園、に、七、寄、附、を、呈、二、十、日、文、出、致、来、り、本、居、橋、原
に、物、を、懸、念、現、付、に、飯、可、武、皇、系、り、庭、の、地、味、を、物
々、森、田、島、に、助、来、流、協、平、迎、の、以、ん、原、平、出
来、と、報、す、夜、ふ、ふ、雨、特、別、議、合、を、す、

八日

日

晴、新、井、印、法、を、難、給、と、し、土、田、妻、を、り、と、未、也、胡、集
師、之、難、志、有、志、以、て、授、け、る、日、生、の、地、味、を、の、地、味

後と書す。舟崎嶽も未だ三川の休養も水も枯
二函貯る。来る印人木村平一陰来、印刻二款あり。
舟黒原平午後五時、二三水拍と路とと牧場
平仰石す。

九日

晴小雨あり漸やく冷氣を受ぬ。朝来、吉志路下
寄る。とく、石を他へ不林存に投ずると、水邊へ
閉境、十時迄とれに散策。白方尾とすを併し中央へ
テ、ここを今も、浦と物と、じエマの山、鏡田鏡

榎原製

士と後五、和田英と書す。西の山へ、散策
左相、東と西、北田、南有、石と書す。

十日

晴、昨夜より冷氣と覺ゆ。午後秋の氣の佳し。午後
五時、朝来、何と平か。つう、午後、散策、後時と書す。
午後、散策、東と西、北田、南有、石と書す。
新井、仰、明、建、碑、と書す。雪、佐、来、と、二三、新、後、と
梅、と書す。

十一日

晴、山の気、佳し。道、の、ま、ま、と、人、集、木、梅、原、印、誌

原稿の目次を作し、又年表出願とす。隨筆の目録
を作し、但反形支店も全の六月の預金入りの電
報あり、丹吳原平、も物御を報し未の大改の吉
田祥三、所も種湖後、家老の二を定のを
の、皇の支那の中央甲と知を衝定と定の
のうじ才は後

十二日

時任反形の定期預金七万圓一口、自分名義七千
圓書の名義六月三十日期限の支、又借入るる

榎原製

二利り、も少利、か受入、其額一萬圓、分る七十九圓
三十三圓、七千圓分る二十九圓、七十五圓、右二口、高野預
金入、更々、半、七、千圓と定期預
け、物、形、支、店、二、月、十日也、亦、預、金、三
十四圓、出、二十圓、先、の、貯、金、三、世、家、一、部、の、伊、丹、舟
公、冬、一、浦、し、七、物、丹、吳、協、平、一、く、未、出、致、添、加
候、も、洋、酒、を、貯、り、未、也、

十三日

時、新、年、原、田、石、文、用、紙、と、土、田、表、六、中、の、言、札、刺、書

本日祥三の訃を聞き、京都後利堂より天心刊
本『即月集』二冊、漢製本と字を異にし、十時出、
弘化館を重く、筆を睡む、故に物も、午後
の江戸都外に報す、日支の通に上流に衝突、交戦、
苦熱を冒し、報に書き、電報社、十七日給納付

十四日

晴、土の云々、大なり、間より、新や、都外に、今晚上海に
報す、二回に、海に、交戦と報す、其も、本所の、所
印、海を、終り、来る、故、果、浅き、報、す、川に、吹、送、上、海

二噴、ま、前、風の、澤、東、信、法、を、睡、む、ま、り、後、に、報、す、
を、筆、下、す、大、改、正、の、形、を、報、す、其、も、本、の、事、を、
報、す、入、り、ラ、ジ、オ、に、上、海、海、軍、の、報、を、傳、へ、支、那
の、飛、行、機、爆、弾、を、外、國、祖、國、に、投、じ、亦、多、数、の
自、國、人、を、爆、殺、す、等、有、徳、甚、し、十、時、三、十、分、
り、内、閣、分、議、を、開、く、の、報、を、聴、く、謝、儀、不、振、大
方、針、と、一、擲、す、

十五日

日

晴、二、三、言、件、の、民、間、側、故、事、北、西、四、死、刑、の、宣、告、を
受、く、報、に、を、筆、下、す、時、を、終、り、小、林、堅、三、と、

小勲の討しむ 野々原の去る 其海軍元行城長 馳南
系南昌 ^所 馳行場を粉砕し 南京を破る
都を策す 其の昔元行城の敗果り 敵の
四十城を潰滅し 敵ハ ^其 兵力と失ふと傳
へり 去元行城ハ 一七八八 こと 皆帰還す

十六日

武新井御川治次 碑文再校 阪上 其の例の注釈
を施す 西宮今津 其の在 大ら こと 十数 山の山
海者 向の銘定 其の 今 相支 丹定 軍

徳原

三十城 逆 馳 乘 陸 砲 隊 本部 燧 砲 隊 下 其 海
軍 空 軍 部 隊 飛 艇 艇 格 子 格 子 敵 の 元 行 場
を 燧 砲 し 津 渡 敵 下 備 司 令 部 其 他 敵 の 重 砲 隊
市 機 関 を 氣 潰 潰 し 粉 砕 し 其 亦 此 南 東 中 の
甲 の 大 砲 室 破 壞 機 六 十 松 納 庫 十 棟 也
報 告 十 一 時 敵 策 略 部 時 分 度 用 七 米 上
野 原 月 二 時 一 七 物 之 形 状 也 其 夜 二 入 也

十七日

時 朝 来 新 井 線 の 砲 文 三 校 津 守 成 今 朝 の 兵

すの妙の上海ハ字格の大自兵隊を載す、其志(意)
部隊長の内環竟進敷十位の敵兵を其の(意)し(意)
隊死を載す、南京大使波多其化院口を股出無
古より時着と載す、徳保知代(意)と(意)なり、預
金(意)川(意)出(意)す、常松藩(意)と(意)未(意)出(意)海(意)回(意)る(意)家
と(意)未(意)也、

十八日

昨、新(意)兵(意)隊(意)の(意)地(意)方(意)事(意)務(意)常(意)松(意)藩(意)重(意)可(意)次(意)郎
并(意)郷(意)川(意)碑(意)と(意)り(意)る(意)程(意)之(意)打(意)合(意)と(意)る(意)事(意)、余(意)の(意)投(意)稿(意)を

為此(意)に(意)政(意)界(意)維(意)新(意)と(意)振(意)興(意)報(意)と(意)兼(意)し(意)供(意)之(意)の(意)出(意)稿(意)
テ(意)ハ(意)一(意)ト(意)ス(意)お(意)と(意)將(意)以(意)テ(意)名(意)伊(意)松(意)丹(意)之(意)致(意)し(意)て(意)仰(意)々(意)千(意)後(意)
亦(意)其(意)熱(意)と(意)言(意)し(意)て(意)終(意)途(意)を(意)告(意)す(意)、四(意)時(意)以(意)前(意)の(意)事(意)あり、
兵(意)隊(意)何(意)を(意)行(意)又(意)七(意)南(意)条(意)と(意)感(意)心(意)敵(意)の(意)あり(意)挽(意)二十
一(意)甚(意)と(意)擊(意)手(意)減(意)す(意)との(意)報(意)あり、

十九日

昨(意)大(意)報(意)の(意)上(意)海(意)の(意)報(意)も(意)敵(意)回(意)既(意)ち(意)五(意)十(意)の(意)元(意)行(意)稿
と(意)格(意)納(意)座(意)二十(意)一(意)と(意)り(意)る(意)事(意)、上(意)海(意)の(意)制(意)定(意)今(意)や(意)定(意)
と(意)格(意)六(意)十(意)時(意)敵(意)兵(意)千(意)位(意)大(意)格(意)と(意)り(意)る(意)事(意)、日(意)本(意)格(意)と(意)

引込し、馬崎島の飛行機を幾台も北支に奪取し、
其の陣地を砲、日合を以て襲撃し、物々たる大は橋を
以て飛行機を南京を襲撃し、火薬庫も爆破し、
大火災を起して、

二十日

曉報来、新井御月輝文相を捕らふ、常松、瑞重
其の次、皇海の中田邦造ととも、其の谷村一
大ら、又、関する余の逃懐、海、印刷機、印刷
と定めて、其の午後、臥し、龍法を清く、時を為

桂原製

去、和の英材、博士死去、存命、花の桐の立木一本、
却、懐、百田也

二十一日

曉報、吾海軍、飛行機、大江、居、後、と急、就、終、納
庫、二、八、機、と、爆、破、す、敵、の、高、射、砲、の、流、弾、米
の、飛、船、に、落、ち、十、九、名、の、死、傷、者、を、生、ず、十、時、市
中、に、散、果、五、十、名、の、一、年、男、朝、又、又、又、上、上、上、
を、捕、ら、ぬ、生、の、中、美、意、と、敵、に、物、一、り、旅、館
を、奪、り、七、時、を、移、す、出、征、將、士、慰、問、會、中、五、回、所
内、の、委、員、二、交、付、す、舟、五、名、の、民、も、訪

二十二日

日

昨、朝来五丁辰力の不安朝文を史と後、石
 川筋金泊島山薬師十門を修と堤高岸
 園の注文とす。ゆ子常月也。雑報を基す。
 午後白木危と訪るも北支古。麦の辰宛今と見え、
 吾甲漢口北西に極進者感元行傍と爆敵の敵
 車三台と撃破す。南口の北方山岳の堅城兵盾則と
 空爆。去決死隊半降。突入。尚も今曉宣化を空爆
 敵の軍中。城圍を爆撃し、大打撃とせり。

櫻原製

二十三日

昨夕朝文迄子の取入に概んて行く。佐清の
 場不徹も、取込朝来五丁辰力の不安朝文を
 史と後、又雑報を基す。三時より、二時迄
 防兵後、執行を報し。来る以上の所、四時迄
 至る。一時迄からサイレン鳴り、砲撃す。車轉る
 佐清小木に、紅葉の句碑の側、木田所を建
 ち余に紅葉の方の鐘字を伝ふ。てき、此の
 四月の既、あつた。今と出来しと、何と、うき
 を定めて来た。防兵演習中、雷鳴り、驟雨烈す。

二十四日

時、坂本、投、山、心、以、常、松、所、
リ、事、也、午、時、敷、東、右、右、三、福、酒、飲、
午、睡、一、時、間、覺、め、ま、
皇、軍、陰、地、岳、肩、倒、一、帯、
陸、を、敵、行、軍、氣、振、不、敵、陣、潰、滅、
漸、す、

二十五日

時、利、未、施、を、筆、し、
彼、并、吉、田、映、二、
田、中、
未、後、若、熱、
坂、す、

午、睡、覚、め、て、
以、難、読、書、道、
晚、長、と、
揚、州、
如、河、深、谷、
東、日、

二十六日

時、丹、吳、協、守、母、ら、
多、の、色、
上、代、日、本、の、
と、想、
と、想、
と、想、

二十七日

時、伊月、遠溪布の兵營に入らんとし、若干の錢ありて
送ら、相末、於此を養ひし、時を移すと、龍の移りて
就き、所々の秘報を記せん、其、海軍、楊子江に於
て敵艦と懸り、いづか、七城、の報あり、其、國大
使、舟、南、東、と、上、河、と、来、り、金、中、流、原、と、受、け、重
傷、の、報、あり、供、人、を、り、又、江、右、の、三、福、と、い、い、ん、を、使
け、り、い、つ、日、又、於、此、と、養、ひ、し、新、河、采、丹、を、ら
味、嚼、清、果、物、を、を、り、り、来、り、死、り、入、り、采、丹、文、子
著、文、

二十八日

時、相末、於、此、を、養、ひ、し、氣、質、を、大、に、り、り、(一)向、を、扱
す、(二)向、の上、海、敵、艦、の、秘、報、を、後、部、隊、上、陸、敵、艦、
全、て、有、利、に、長、洲、敵、軍、退、却、開始、の、於、此、あり、
り、(三)江、中、機、連、隊、南、京、と、宜、記、を、爆、炸、を、完、了、す、
と、新、河、と、又、敵、の、勢、を、三、八、二、百、地、を、極、整、し、
一時、河、に、呂、橋、南、口、橋、来、河、砲、隊、あり、新、井、
河、川、砲、隊、と、土、田、来、河、砲、隊、あり、

二十九日

日

時、神戸の根反吉岡山春も修善寺池春、空江指標と
空をよみ、予の池春中の二篇指標し、相来旋風を
著す。俗来秋来比世、酒飲、物も致一時間午睡上
海船を渡、福州、及外回船動起、曇又去病
院船を促、ソレ支不可侵修約成主と傳ふ。

三十日

時、吉岡山春、二回、宮内府守務友鈴木重春の孫
利、赤一砂の秋金、五万圓、先し家内、元久市
中日々、証類、各戸、毎日、四族を待く、丹天協平

二葉子を送る、十一時、秋来、波子、秋音を、と、養し
下谷の、凡、日、水、に、飯、大、物、老、後、午、睡、先、耳、指、標
を、筆、す、為、問、雷、つ、雨、来、す、す、為、為、私、と、
来、向、采、春、廿、次、も、ち、秋、師、も、下、娘、利、と、

三十一日

時、神戸、仰、川、碑、嘉、秋、も、つ、き、常、松、海、重、土、田、表、太
印、と、及、也、津、田、出、の、事、恩、故、送、の、筆、記、を、森
重、夫、と、も、名、を、も、つ、常、松、婿、を、投、向、高、野
省、三、と、名、を、も、つ、と、先、と、吊、礼、と、や、り、皇、軍、兵

此砲臺を占據。又南支心腹村廣東福新を空襲す。
大の戦果を収む。又敵前上陸を敢行す。蔣介石
一七聯隊を新へ千餘を捕ふ。内江を渡るの女子隊
若くは市の砲臺を占む。曲直千馬隊の一編を捕獲す。
ことを求む。去る西春を占む。

口九月

一日

二百十日

昨、本日十四日の大震災紀念日也。二百十日の定例
と平穩す。今日午前九時の行内を通過し後出来井

上個日運面に暑く、雑沓を著し、森原を以て治むを
考す、佐々木澄彦のゆき舞を以て出陣物を贈り、
休養を促し、つら、高田不飲の多弁式を先臨む考
與、同日を以て祝報を以て皇軍馬廐を猛勢の敵
運河を決して抵抗皇軍。酒流を衝き、内務激戦
展開、二少尉就死敵を撃たず、又と橋を深更
快雨一息

二日

昨夜の雨を以て樹木がのび生氣あり、今朝の秋の気

八報す敵吳淞を奪取しを企て遂に江中を敵
の死傷八百逐に勢退其淞江砲台とて、
飛行機二百台飛行士十六名を捕給て、
未だ十一時敵軍所居の岸を奪取す、
大勝報す、皇軍獅子林砲台とて、
續出と。

三日

時、臨時司令部、
二十四日、
吳淞砲台逐に敵

尻撃海を埋め、不夜の望口並に、
言を正春、
軍、
滅す、
中、

四日

時、
言、
の敵、

の政を爆撃、蔡南自派政府中外、何とて宣す、八銀行
事務を交し、移る、飲する、本、汝、今、開、院、式、一、可、意、
と言及、新法と賜ふ、白、甲、山、西、省、一、進、歩、永、土、嘉、法、入
聖、望、を、授、く

廿日

日

昨、市島、道、の、不、知、係、今、何、と、宣、す、八、銀、行、の、
廿、五、日、出、来、る、旨、を、告、げ、る、事、者、と、之、を、市、の、
事、に、成、る、時、今、十、六、日、開、院、の、色、に、年、久、此、本、十、
二、日、の、中、一、期、分、知、租、租、地、租、府、後、市、税、の、徴

田河野

票、利、の、北、部、の、四、十、五、日、也、敵、軍、上、海、の、改、義、を、故
回、十、八、と、一、大、倉、に、二、十、萬、の、大、兵、を、派、す、故、後、東、南
系、兵、の、激、進、打、撃、と、木、炭、一、億、兩、を、全、國、海、軍、の、
支、那、艦、の、航、行、進、所、三、城、を、全、支、沿、岸、に、振、大、(木
三、回、程、借、地、及、古、跡、を、除、き、)と、移、る、旨、を、夜、に、入、り
直、接、首、相、の、決、意、宣、明、の、放、送、を、聴、く、

廿日

昨、市島、鐵、大、倉、に、二、十、萬、の、大、兵、を、派、す、故、後、東、南
系、兵、の、激、進、打、撃、と、木、炭、一、億、兩、を、全、國、海、軍、の、
支、那、艦、の、航、行、進、所、三、城、を、全、支、沿、岸、に、振、大、(木
三、回、程、借、地、及、古、跡、を、除、き、)と、移、る、旨、を、夜、に、入、り
直、接、首、相、の、決、意、宣、明、の、放、送、を、聴、く、

東父老の爲め權を奪つた事、田に別一と少の
所方の若者を求め、十時出遊、日本橋筋の河
原を渡る、田に別一、酒を飲り、東、西、南を投
る、亀山、三の爲の本長、道、日本、京、歌、信、在、の、若、者、
午後、陸軍の存、存、十、時、出、遊、

七日

頃、東、島、島、の、相、を、持、つ、ま、つ、口、且、の、余、の、相、是、を
需、む、朝、来、臨、幸、敷、局、を、移、す、十、一、時、出、遊、
新、宿、の、外、若、者、を、飲、す、本、田、の、衆、議、院、臨、幸、

田、島、島、

今、海、二、首、相、三、年、後、の、オ、リ、ム、ピ、の、ク、大、合、を、行、す、
●、島、を、告、白、す、軍、市、松、井、赤、池、院、通、り、敷、敷、と
云、く、皇、軍、軍、上、路、の、右、の、兵、を、潰、滅、す、又、羅、石、
鎮、西、北、方、の、激、戦、に、敵、一、千、を、殲、滅、す、又、寶、山、城、
を、占、領、す、と、

八日

明、朝、来、臨、幸、の、存、存、を、行、す、十、時、出、遊、
松、島、重、く、来、臨、幸、を、行、す、時、頃、分、す、と、の、政、府、
存、存、を、行、す、と、閉、幕、し、出、政、部、と、近、利、一、冊、配、本、

十日午後二時日本國會議事場にて今日迄牒列
又十日午後三時今日迄知事公署にて今日迄牒列
を感し懐妊も過り合ふ

九日

今朝腹痛を感せしむるも熱ありしもの如く
此の熱も外床に干しては体温三十八度五分
今日も熱ありし眠る際約一息、中絶して一息
を感し胸力も悪く、遂に服薬し其の下
劑を服す。熱三十七度五分、今日迄

東京一印大下ルストイを穿りてある。

十日

雨相續き、今日も熱ありしもの如く
下劑を服し、今日も熱ありしもの如く
又今朝も熱ありしもの如く、今日迄
中絶ありしもの如く、今日迄
パンフレットを穿りてある。今日迄
今日迄、今日迄、今日迄、今日迄
今日迄、今日迄、今日迄、今日迄

十一日

二百二十日

知分を耳にせん。七徳を多し。飛凡。四國を以て之に
 演し。今朝。丸幕を成。こせん。所。大。二。六
 皇軍。馬廐を占領す。侍。八。所。所。松。所
 空。も。以。井。御。川。治。丸。砲。の。押。是。用。使。を
 空。も。も。あ。い。永。原。の。法。山。嶽。順。法。も。其。出。下。に
 ス。ト。イ。の。一。日。一。善。も。積。む。今。日。無。熱。但。し。而。し。て
 多。し。夜。七。時。迄。近。衛。省。相。内。相。と。共。二。日。比。谷。合。軍
 二。回。民。日。天。候。を。送。る。海。濱。を。多。し。ラ。レ。オ。が。致。送。す

十二日

日

所。々。乳。病。床。を。拂。い。服。薬。を。病。者。我。報。三
 く。皇。軍。馬。廐。を。日。略。し。進。入。七。善。縣。を。攻。む。ト。ん
 ス。ト。イ。の。一。日。一。善。中。合。心。の。法。を。橋。録。す。又。難。怪
 を。兼。す。午。後。の。敵。報。に。務。行。鎮。并。二。善。縣。臨
 海。上。條。六。中。空。飛。文。を。未。亡。入。可。も。新。有。の。敵
 策。三。福。酒。會。あり。街。頭。出。征。の。為。の。軍。回。氣。分
 漲。り。

十三日

晴。冷。漆。山。順。法。原。久。一。等。と。同。支。難。保。を。兼。す。下

別を版す午後大江に疾の才あり時向と決す外出
丸にル、別りゆ長江の紙、皇室大回の古録を報
す外出中、中川愛永言の懸念を案めしむ、

十四日

時、少佐の報ず数日の激戦を伴て皇室上海に完全
の飛渡を待し得、一挙に攻むの態なり敵中動搖
すことあり、今朝初め便通あり、我軍仲三斤
（一）密心方寸廿二卷（旺峰門）覆志を二巻を
寄る七月、中川愛永永山陽の額面と時傳を

鏖す午後揮毫十六紙書債略を清掃し、報報
上海市政府の占領を報す

十五日

時、冷、今のくも十九の（三）防空演習行へ、大谷八重
子守田勤福後時のむを別、敵報ありと敵三
力を差加定り集後（の）破火の皇軍敵陣居
巻江湾無の臨る處迫り虎門砲臺を攻め
敵の二軍艦擱坐南支前部の海軍長用す、
預金百五十圓引出す、下兵改進費は撥七十圓

御旨、大臣ニ書き候入つてと相違を述べ、其旨に
 所多合のりも相違の事平段を別りす、又報云
 く米田の支百七、武芸藝進を禁止する事、
 政府所有船：就之奉命すとあり、田村壯二郎
 不意の怪我を入院と報い来る、増田乙四の事
 揚、中央公論就之ニ云く二世の日露開戦も
 革命勃発の日の法を讀む、大令義開始せん
 人として指揮官として支万南寺由大将上海方
 面に大將派遣、夜に入り雨す

十六日

而冷志し、此日の戦報云く、海物平野に展開す
 一大決戦の幕の切つて在るに戦線は大山崎、固安を
 結ぶ蜿蜒二十里、奉天線以来の大令戦の敵軍は
 中漢線より固安戦線を通り全軍約三十萬を
 すといふ。常松瑞室は功意なきを能く隠蔽
 再び午後後理公使、立時駐米公使の臨会に
 臨み、事の四ヶ本森増田等の今時局を語る

十七日

向冷朝来戦塵揚り暮す其午後松本まで一尋
訪回す後協会の役員改選其他の事につき有る
話してある余の隨筆を収めたる東京日日の正午
版に振別戦後云々保定命將の最要點涿州臨
房平漢線断又保定に砲台空爆を
行ふ今起初なる防空演習云々は終久是れを行
ふ

十八日

頃今朝の朝夕云々涿州砲台陥落皇軍の敵の工師

張原製

固を包圍塵埃を包圍の戦術百里に及ぶと又云く保定
大爆撃を受けた後涿州も漸く防空演習を多し候
く、戦果市中の防空の撲滅を視察東京聯合会を
二噸七噸の重砲を善く見外山中活の谷天鼓
有る余の隨筆を収めたる東京日日の正午版
刊連戦報云々涿州の包圍作戦切を奏
し敵軍一志なきは漢走敵の大傷六千と傳へ
本日偶々七年前涿州を襲つた開戦の紀念日と
あり、後又官報に英四國を帰報の案に
就くも、夜十二時廿一レシ止なきは、嗚り敵の直

北支の戦況、防空演習、**中**、敵軍の侵入、

十九日

雨、昨夜未の頃、今朝より、雑沓と音、木林登
三身派、午後、播磨、水、真、馬、法、去、以、写、詠、し、と、あ、り、
為、田、兵、隊、に、投、擲、戦、報、と、云、く、兵、河、軍、走、行、機、大
舉、し、と、高、京、と、二、回、死、む、い、空、中、敵、の、三、十、二、機、
を、撃、墜、し、た、而、陸、軍、飛、行、機、の、傷、害、を、記、載、し、敵、の、七、機、を
墜、落、し、た、

櫻原製

二十日

晴、朝未、龍、雲、を、著、し、上、空、花、を、注、射、を、
受、り、庭、中、の、萩、亂、ん、咲、く、二、宮、菱、池、も、冰、也、判、
り、新、了、城、の、旗、外、と、云、く、南、京、を、敵、軍、取、り、中、心、と、
認め、廿一日、正、午、以、後、徹、夜、空、爆、を、敵、の、三、機、
并、三、機、隊、長、及、び、各、團、兵、の、砲、撃、を、新、告、し、た、
と、午後、二、時、百、拾、五、の、飛、行、機、吾、ら、屋、上、を、飛、ぶ、
所、由、神、社、を、拜、り、の、者、と、云、く、

二十一日

時、直江流の素石氏が、余の指見に對し而
玉川久新翁に教果伊勢丹を乞ふ。領し、海之
或流神の道著り、代日本軍吉史を賜ふ。東
卒日、乙午午後、甲午の海軍を指く、皇后陛下を銃
法に降し、十萬圓下賜、報に云く、海軍城府
東爆撃、亦羅鐵附近一齊に破壊著る。要地を占
據、近代日本軍吉史を授ふ。

二十二日

書文、宇尾中深、海軍の文部、其後、難治を基す

藤原製

余の指見を、牧野氏、東京の乙午午後、投打四
篇、いんも、早良、以代、日本、甲午、史を授ふ。南
京、度、東、爆、撃、す、日、本、軍、吉、史、を、授、ふ、今、秋、決
定、報、失、利、の、夜、こ、入、り、雨

二十三日

秋、未、子、白、雲、祭

時、相、未、龍、探、を、奉、り、乙、午、月、一、日、金、子、協、生、退、輝、心
卷、令、(大、浪、分、館)の、あ、ま、の、別、り、丹、美、の、平、を、場、平
為、氣、回、後、の、枕、を、敷、し、未、く、方、の、漢、子、を、未、也
十一、時、信、之、牧、果、新、翁、の、味、を、飲、み、給、ふ、日

本軍可未を後也

二十四日

此、今朝の夜、俄に保定の戦場の合戦決し、皇軍城壁を
肉を敵に侵しんとす。又羅城の南端、白壁の家
と稱す。敵の堅固なる陣地、板を難く、工兵坑道を
掘り前進、爆破と行ふ。此の堅陣一瞬に粉砕さる
とあり、防中航空隊の戦績に云く、飛行機数機墜
落、破損の敵、投棄二万、十四機、機納倉、破壊
四十八棟とあり、余の言の信をぬらざる言志、然るに、

皇軍

列、随筆の原稿を整理す。夜に入り保定の戦場の
快報刊の、軍事史の稿入り、此九十二時後、流し多ク
しと禁す。

二十五日

皇軍

此、戦報三々皇軍、演習を臨み、雑録を筆す。皇
軍、海南島未だ、二六、七、八の夜、大将、皇軍の
判決を受く、大工を俄ち、碇子、陸子、を修め、
新島、新島、今も余の東京のこゝ、物付け、陸軍、
を雑録に、戦報を也とめ、また、皇軍

二十七日

日

昨今朝の江戸紙の報す皆海河丸行村南京を
 五回死を懸すすも、又巡洋艦を爆撃すも、又中支の
 黄大嶼虎頭の二島を占據すも、南京の空砲を市況
 府と粉砕すも、三四年打倦へて行かざるも、今の花
 二到り元の樹木枝茂り日光庶きらんで、白晝
 啼く樹木も漸やく枯らんとも、近き樹枝を
 剪つて手入を為す人きを感し、附近の麦代を
 七折るに出で、遂に稲生に出む、嗚呼と嘆くを
 報と筆し、時を勢多人も俄くを望菜畑を愁

稗原製

理す、親報云々、休乞宮者、浦江の船上、指揮中敵
 隊の破片、微傷を受けり。

二十七日

昨、旅法有志路に載り、星の先生、途傍の一
 文を校西し、一歩あるの二宮、交話、枝、又三
 刻、小舟、舟、次、旅法、山、橋、中、山、橋
 田、義、一、河、一、舟、舟、川、家、家、船、押、舟、舟、大、田
 政、弘、文、海、を、航、す、白、馬、馬、馬、舟、舟、舟、舟、舟、舟
 の、船、定、七、永、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟、舟

湯島の梨果二區刊来、夜来雨多

二十八日

噴き松豊去後士死去、秋報、皇甲與漢敵道
と被増奥地、輸送を封ふ、才一銀、預金四百
円、此出、亀山、三、都府橋、九、研、石、屋、山、夫
人、遺、研、島、と、交付、川、瀬、一、馬、車、月、法、家、本、辰、院
今、上、つ、あ、く、一、つ、き、母、法、新、河、白、谷、ま、ま、梨、果、を
賜、う、来、る、増、四、義、一、と、太、田、政、弘、新、井、伊、川、流、水
碑、一、と、家、親、村、立、毛、水、流、の、と、を、報、し、来、り、

徳原製

佐原隆来、之、前、菊、と、贈、り、

二十九日

噴、重、松、崎、重、橋、漸、向、蒸、氣、大、く、雨、谷、裏、三
次、の、郵、也、と、書、き、八、時、迄、地、倉、あ、り、山、田、信、行、月、夜、に、
松、崎、重、橋、来、り、六、時、あ、り、物、十一、時、出、掛、然、屋
二、物、を、崎、山、味、多、く、浦、上、の、信、大、二、と、願、大、根、大、上
ク、を、多、く、田、之、梨、郎、梅、上、の、石、高、橋、等、と、後、に、
夜、二、入、り、雨

二十日

而朝未難知と蒼々、故國の事、日本是、梁文海
託と清ら、僕人、と如、淋、沙、局、の、存、勢、冊、名、を、飲、す、
荒、れ、如、其、壯、志、を、
捕、獲、す、る、事、を、
と、他、の、事、を、考、へ、
捕、獲、す、る、事、を、
と、他、の、事、を、考、へ、

○十月

一日

棟原製

而、朝、未、難、知、の、日、本、是、梁、文、海、を、後、の、柳、瀬、
柳、氏、訪、り、并、柳、川、次、の、碑、の、家、歎、惜、を、托、す、
若干の税を納む、午後難知を著し、時を移す、
立、時、大、隈、公、領、の、金、子、馬、込、城、上、の、追、悼、令、に、臨、
み、早、上、漢、説、と、す、

二日

而、今、朝、の、戦、報、云、皇、軍、山、東、有、進、又、津、浦、砲、
素、園、鎮、を、占、據、又、云、英、國、の、支、那、援、助、漸、也、
露、兵、皆、と、り、と、り、
捕、瀬、柳、増、田、義、之、投、筒、

雑兵を某より、教果お甘、物を購ひ且つ酒飯
しつゆつ、牛、睡、雨、雷、の、乱、流、進、軍、先、と、増、え、外、出、せ
た、じ、し、二、階、こ、へ、れ、し、や、か、り、と、や、某、の、器、具、陳、列、を、見
又

三日

初夜時、豊山君、二、奥村、派、即、未、揚、つ、の、敵、兵、を、三、く、
敵、十、三、萬、の、大、軍、を、石、家、在、に、集、め、決、戦、と、某、は、自、軍、
を、北、に、爆、撃、す、す、又、皇、軍、百、空、二、廟、と、占、領、す、教、果、
新、石、の、菊、を、燦、々、中、村、志、の、領、す、的、未、能、報、を、某、は、

山東の徳州、淄、魯、を、始、終、改、進、執、談、の、時、を、移、す

四日

晴、雨、子、の、信、新、石、の、三、階、の、物、を、購、ひ、大、口、の、牛、を、某、
申、し、つ、ゆ、つ、午、睡、一、時、間、雑、兵、を、某、は、

五日

晴、山、田、信、長、志、原、詮、房、其、流、任、友、紹、の、手、
預、金、二、百、圓、其、上、に、増、田、義、一、と、某、商、所、自、御、
川、原、を、押、是、す、と、當、り、志、碑、初、を、行、正、す

二列の

八日

兩朝未雜帳と著す。中書漏らふ。所也と書す。大
坂の神田主待と松原を定む。其の時十一時迄と
付を新有と刊り伊勢丹の支那新聞の長巻を
と見回公堂に假す。午後又雜録と著す。且つ
烏丸の山岳地帯を後出、丹兵と一果と略す
未の徴税票到未

棟原製

九日

昨朝より以井御川畔押巻に元の如く一行四十八
字十八行字敷六万餘十二時迄二漸やく成す
午後と若干の字を改書す。浄念寺廣徳の
時と松三とと書す。其の度廣徳林田主待に
所也と書す。常和酒堂に投札五に碑文押巻
小色二巻送。阿田義一土田秀方よりと投筒中村
坂守記念寺業書活字二十七日止時吉士守録
通除列の

十日

日

横山堂前山、出の文庫と古洋磁器本借
 受の件、二封款、二程の回、目録と扱、
 屋弘弘、草子果、自志の、
 歳果、弘文花及町、待買古書目録と定、
 二、至、
 家は狂撃、敵軍二十萬、
 二、
 二、
 二、

十一日

棟原製

町、朝来、
 田村壯二、
 田見、
 東部、
 夜、

十二日

町、
 川、
 八、

○未、午後四時、内閣参議十名を還く、決す

十三日

陰戦後三三、皇軍石家在と占領す、皇軍北来と
北京と改称す、何國日本と提携の意を表し、支那の
女子飛行将校を引揚を命ず、日支交戦前二七
十日、新報を基とし、帝松福寺を最期増長料入
也、北来、午後五時、山陽有栖集を渡り、又
刻古山六丁目辰好亭に移し、福智堂今の回りと今
一安田果実の一日進捗の志を表す。

榎原製

十四日

雨、楠瀬河、為修入五時、七時、午後五時、
甲物葡萄一、此、宮内省、内閣参議十名任命、
琳浪閣、仙崎并、主生如石の印、湯を煖、
出、殿、身、近刊配本、教員、紙、生、物、を、贈、
以、高、峰、屋、公、名、を、叙、し、均、来、午、睡、眠、せ、り、
新報、を、基、し、

十五日

晴、坂口、蘇、吉、村、山、崎、一、地、主、家、木、村、等、陰、集

坂横山重に投簡翠陰誤刻を是見一投簡
秩父官殿下地取らば其に投簡俾胡楠前向ら未
簡其茶あ新中しと持監あを定りて来る。

十六日

雨禁あに海也を尋す、廿世一〇〇〇の向あ空を
あ回又存り法字本海別名蓮のあ十の光り
坂上弘花を注射を交く、平保死天のとも
葡萄割来海也を乃う、午後抄録時を抄
り、二十二日あの日美あ一、向あ速夜に二、

標原製

今故に招く、通る雨あ。

十七日

日

今細ああつて、池あ漸く海り、木村岸陰あ、所
の取刻を尋す、小形法鏡に合心の法を編録時を移
す、陰掛りて海くうおあ、抄録の伊勢丹あを
二通録し七ゆり、箱の徳もあ、二時海空あ。

十八日

雨箱田法に病、あるまのあああ、抄録あ

系圖をあらわすに、
あつす午の温酒を飲む、
夜半の今もあつす
印をおえと久き

十九日

初来ゆる終の陰翳寒冷と不塔、
去田和男、
を差し香菓子を贈り、
心身法、
末物給の時を捕す、
洋金裁と寄る

標原製

二十日

町、
安田文庫も川瀬一馬編纂の古法字殿の研究を
寄る、
領うすも也、
派字本の陳列を考へ、
抄録時を移す、
桐嶋俊一の訃に接す

二十一日

時、
種命を母老馬の教あり、
十時の

本日文庫 古活字本の陳列會に臨み午後由良旋
舟と書きし、金山日記の巻末に村瀬郎の註列の楠
湖日年と龍溪石の註との小書とを寄る
龍溪石の立信女の題材也

二十二日

小雨朝未雜細を著し午時にふく書物長比社よ
り取り小島鳥水の運柁の白紙と紙摺を二冊
の隨筆、腰紙此二冊を生りてある、讀むと時と
あり、五時東京會館の安田の招宴に赴く、九時半安田

榎原製

親友、久松美太郎夫婦、永沢久末と合ふ、
文相更迭木戸侯文おとらる。今夜林陸毅の九回合戦
の放送を聴く、全死の國也

二十三日

晴、市河三喜と七海と赤毛及び高橋のハシ
ラシラと寄る、おの三福、酒飲ま、何事能
くも書きし、おの空の舟とあり、日本漢文は子
利也、

二十四日

日

時、朝未だ終始と筆、時を移る、朝日の号外三三と上
河才一役の支那軍、今朝迄是即と開始我全陸軍
一齊推進致さんとあり、是れ人の共知の結果也、吉
田和男も未だ

二十五日

時、朝未だ終始、時を移る、任及所の預金五十
円引出す、新河村銃銃派も魁の味増淡一
杉と寄り来る、先と付あて散策果報は、竹葉
二級了、續中老母危馬の電報判り、謹七十一

棟原製

時、折去廿八日葬儀を電報し来る、吊電を差し
香費十圓郵送

二十六日

時、園を祭(十月一日)の事あり、卯土潤東研究會
らと滋原子の進徳法を説く、新河銃銃二二おま
もあつた、小井堅三、河邊を語り来る、お回家も
遺物を終る、吉田印林、相本、日ま、空海、南耳
初、皇軍、上海の心臓部大場銃銃と、領、敵、出、結
ちの激戦と、上、河村、松、石、幸、夏、辰、鏡、人、ら

兄、物事終つて暮る

二十七日

昨、午回家、湯と暮る、別本師土研究会より巻と名し流
澤子の進法文を草す、皇宮法南子、山陽陽
之起奏、宇尾の湯す、物と終る、数報三
く大佛鎮に願、次き江津鎮、今朝臨、都民
今夜祝文の提燈行列を行ふ、政府九回會、
不參加の理由も中外に聲、ゆす、上田萬年死去

櫻原製

二十八日

昨日大く、身出、且つ湯印を、心徑の楊本を寄
せ、珠玉、珠玉、珠玉、不用、本を、佛、法、海、を
進法、進法、進法、苦心、一、事、一、事、佛、土、研究、会、雜、記、
投ず、飛、湯、を、印、法、を、換、し、印、法、を、勤、く、身、指、鏡、
二、秋、刀、を、送、る、供、み、未、り、出、湯、資、生、者、に、領、す、先、子
指、腫、を、切、離、す

二十九日

昨、早、大、く、山、刊、の、ハ、ン、フ、レ、ウ、ト、二、程、送、り、来、る、雜

録も著す、田中留家古稀祝賀今の物事又伯林
大学教授エテエアル、シエ。プランガー博士の早大に於
ける講演日本文化の印象を後述。

二十日

明才一紙の勸金回覧ありて一家用に充つ上
田中留家一紙の嘉助(早中職あり)の生お式と臨
仰土園主人の同席、お浮(既男)大久保湖南の遊
を出収するつき序と全二書あり、後と序あり、
雑記と著す。

三十一日

日

明、朝来大久保湖南の詩集の序を稿し、成り。
散策不忍他の数ありて見、瓜月、飯とゆふ。
午後湖南の集の序を序ありて、お浮(既男)
に郵送す、矢吹家、後時の書あり、祝物を送る。
立釜山関太郎、お浮、夜来あり。

〇十一月

一日

湘南特勤の序再校と古澤く郵送す。梅の
未主人手物と贈る。数果敢るの牛を身と嗜す。
午後鎌倉板垣皇子苑を踏る来り。

二日

晴。浄徳社後三十二回十支の付(秋晴特別社を包合す)
雑草を筆す。雪沼納付。山田心伝。藤原良助。遠
藤(大和)も。海鼠腕を踏る。向子者又匠と

稗原製

迎ふ。花未小山。雪沼納付。十七回納付。秋後良助
書す。雜草未。

三日

晴。鎌倉

雨。白旗大寺を巡る。白身。我々柱七。九回
會談。才一日。支那。多。皇軍。上海。と。包圍。も
南京。と。極。ま。と。極。め。と。大。切。の。目。が。あ。る。朝。来。庭。庭
を。筆。す。加。賀。連。三。三。り。耳。海。熱。肋。雜。美。の。起。炭。を。河
女。即。せ。三。十。数。冊。の。押。書。を。筆。す。若。狭。駒。を。踏。る。
あの。推。園。の。後。橋。が。著。す。と。え。九。川。瀬。一。馬。の。流。宮。殿。の
研究。所。園。を。二。冊。の。一。十。頁。の。よ。ふ。本。を。刊。来。す。

午後西宮にてお待たせにてお集りなされし此の園地
 への直印と親しき行進に法方より入るは松を巻く細糸
 と解りし物なり此日皇軍折口鎮と占領敵の死傷
 三萬と報す

四日

頃高橋鏡二よりお出されし田文庫へ致しお集りな
 されし事なりお集りなされし村浦聖子の歌集お集りな
 されし物なりお集りなされし長江龍舟の日下お集り
 されし物なりお集りなされし来志聖子の歌集を讀み時と

榎原製

後日

十日

頃杉浦聖子よりお出されし日本法政新聞を
 お集りなされし皇軍開城鎮并に彰徳を占領十一時迄
 お集りなされし物なりお集りなされしお集りなされし
 三頭文子法政を祝す是れを讀みお集りなされし
 榎原と親しき物なり午後降向お集りなされし事なり
 御園に於て法政の振興の南満洲鐵道
 付属地行政権を關す日滿の條約調印なり

六日

雨、長井の報より、皇中太原と爲ると又三ヶ九四令候
行き候と、雜伝と著す、金沢、鳥取、田中、三浦
又三、関大し、と果也、七、洋能、男、子、珍、本、根、津
竹、枝、と、菓、子、と、贈、り、す、五、時、江、兵、隊、の、睦、令、と、臨、山、松
平、山、月、楊、田、と、余、也、唐、人、日、獨、伊、原、共、協、定、成、立、之
油、印、成、立、

七日

日

時、木村、早、花、改、刻、の、印、と、持、冬、本、河、久、雄、喜、江

長井、官、印、の、画、幅、の、類、書、す、村、浦、翠、子、と、し
月、之、雜、伝、と、著、す、伝、入、の、教、員、新、お、の、三、福、三、酒
飯、の、物、具、又、新、お、の、著、す、川、原、一、馬、安、田、文、章、の、油
禮、と、し、大、河、内、院、遠、一、鉢、を、贈、り、来、り、首、合、の、別、在
村、と、し、井、橋、一、ツ、和、判、来、り、夜、未、雨、令、地、三、四、提
擧、を、殺、す、提、燈、の、外、あ、り、日、比、公、官、候、迄、賑、々

八日

雨、朝、未、雜、伝、と、著、す、各、々、令、の、皇、軍、と、年、を、相、首
と、書、候、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、
味、之、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、
皇、中、五、句、の、苦、難、を、行、七、太、原

臨みす

九日

雨降日降由漁舟伝渡云空電燈を月ハ掛
陶ト云いん方々午酒を飲んて暮を後未臥
しと旅旅を觀しよの七候也

十日

頃時表以來八十九日(晴)上海刺座、露臺成
る、太原の敵頑強抗日熱最上熾入る七、敵死守し

種原製

糧投降を勸告するも應せず、終に皇軍の力唐
境より、北京との連絡を確の岡野山親を以て、
難向と兼て榎木を以て入を以て、丹六
協日平為金と出京其功、宇尾中、海も物も答
七是る、十一時敵軍下谷の以月、敵軍、江の栗
林を以て果物川来、

十一日

頃、安田文彦井宇尾中、海を以て、
と此時の祝多別々、表の一家若谷山、九年、
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

ふ新の級をふと後引ニ尾洞方を信託国丁二人
を名と目来ふ。水原ニ寄る道に果物老に到
来。沼津の物と辨ひ浦一七海ふ。新の角谷を木
炭二十俵引来。古の前の松弱り氣味入のき川草
を施す。

十二日

昨今朝の引のり上信の境山津迄起り小半硫黄
銀山即後北寄五六百石を(てん)の境と報
す。北銀山の北海邊硫黄金砂の注言に属し、融雪の地

を後の山津津と起りし。宇尾令海と稱す。日支
市夏の間と平十枚と稱す。才一好の預金も目
引出す。心の中角谷喜三次らと来出。及令
別荘地と後登^等信利来。この國丁も来りし。
午後林の初心目切柄を起り。旅の事と書し
時を移す。出征將士に優記を賜ふ。

十三日

昨早大の書道研究会の春夕集り色を請ふ。随
て中相確りし。其の次、瓜島の次と題す。パンク

下賜らる、浴め、就て法と交り、富山方面の編輯
員島村副、地名所典改訂のつぎ、去の在任
の送まると華化して、雪と混り、丹原原平
より白米一俵、利未、去の舟寄、一も、位、送りの難
利未、去の、送りの、位、味、増、利、送、り、及、散、業、抄
を、増、う、り、ゆ、り、高、須、物、行、業、子、稿、二、三、海、北、と、も、り、ま、り
新、の、無、法、仁、一、乾、苦、と、贈、り、書、送、り、今、曉、の、増、業、成
り、富、山、の、嘴、の、文、と、行、り、未、了

十四日

日

穂原製

昨、朝来富山、舟嘴の文と、ゆり、り、列、つ、り、業
心、ま、り、り、り、成、り、加、賀、幸、三、の、外、に、揚、り、吊、状
書、送、り、十一、時、に、右、に、散、業、三、福、に、酒、飯、す、我、報
二、三、く、南、翔、嘉、定、共、に、伝、有、す、り、

十五日

昨、今朝富山、舟嘴の文と、ゆり、り、列、つ、り、業
心、ま、り、り、り、成、り、加、賀、幸、三、の、外、に、揚、り、吊、状
書、送、り、十一、時、に、右、に、散、業、三、福、に、酒、飯、す、我、報
二、三、く、南、翔、嘉、定、共、に、伝、有、す、り、

大隈侯からこの世の小銅像も焼く欲布す。其の
あとの輪廻をうらまへ川瀬一馬前より山嵐山大会
松江高橋午後ぬゆに乗し上宮へて來乗、別荘
辨りうき休向叔心ニ投向、雜報を兼し時を
待す。

十六日

此今朝の時じうく激害を感え、安田又彦も兼
吉、雜報を兼し、七時を過ぎ、早大と親上各
部化要と空を兼し、午とぬ。日防室讀習、今

榎原製

日四侯を愛う出す、午後散葉、中宮正刻の著
日本に支那とありしと後、島田刻一と未出

十七日

此今朝の以多の報より支那の重慶ニ都を遷
すの法しうと、中宮正刻の著を讀み、川瀬一馬
其の法、あゆみの報ゆらうと、法其の法果を
あゆの報者携書ニ報す、午後初所ニ乗し上宮
侯を愛うと散葉未出、午後散報を兼し。

十八日

順大本堂令公布、雜録と著し時と移来中、
刊の著と漢文多、又、早大出版部
直刊の村戒三の史、論を賜り来、
高長谷川久入山陽幅の鑑定を求む、
あ一の補を乞ふ、

十九日

成田山、吉書年報を乞ふ
と、真清仁一と来、高長谷川久入山陽幅の鑑定を求む、
あ一の補を乞ふ、

榎原製

其、定念、後、説、合、を、見、曰、合、書、二、浦、方、誠、後、
高、田、三、柱、を、修、重、の、高、の、吉、件、を、定、念、野、越、を、建、
段、来、丹、吉、除、奉、命、式、執、行、の、事、あ、あ、の、外、刊、の、

以下別冊あり

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

様原製

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

榎原製

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

榛厚製

